

まちなかアート



まだまだあるよ!
さが探してみよう!

たかおか 高岡にはたくさんの銅像がいっぱい!
まちなかにあふれるアートを探してみよう!



たかおか こじょうこうえん
高岡古城公園
わかば 若葉



たかおか こじょうこうえん
高岡古城公園
まえだ としながこうぞう
前田利長公像



おたやど
御旅屋通り
かくたい まど
楽隊の窓



たかおか えきまえ
高岡駅前エリア
さんぼみち
ドラえもんの散歩道



たかおか えきまえ
高岡駅前エリア
おおともやかもちろう
大伴家持像



かなやまち
金屋町エリア
ほうおうそう
鳳凰像



とのお
えんじゅ通り
ちんじゆ もり
鎮守の杜のアルチザン

スタンプカード

| | | | | |
|--------------------------------------|--|------------------------------------|-----------------------|---|
| 1 たかおかし いものしりょうかん 高岡市鑄物資料館 | 2 たかおかし ふしき きたまえふねしりょうかん 高岡市伏木北前船資料館 (旧秋元家) | 3 たかおかし りつはくぶつかん 高岡市立博物館 | 4 たいぶつじ 大仏寺 | 5 たかおかちいし じ ばさんきょう 高岡地域地産産業センター ZIBA |
|--------------------------------------|--|------------------------------------|-----------------------|---|



高岡再発見プログラム たかおか 解体新書

いいところ
再発見!
さいはっけん

かい たい しん しょ
たかおかものづくりI 鑄物編
い もの へん

きくじ

| | | |
|-----------|---|----|
| Episode 1 | たかおか いもの へじ 高岡鑄物の始まり | 3 |
| Episode 2 | たかおか いもの しんしゅつ きたまえふね 高岡鑄物の進出と北前船 | 5 |
| Episode 3 | はなひら たかおかどう き 花開く高岡銅器 | 7 |
| Episode 4 | どうき たかおか しやうやうたかおかだいぶつ 銅器のまち高岡の象徴 高岡大仏 | 9 |
| Episode 5 | たかおかどう き ふつこう はんえい 高岡銅器の復興と繁栄 | 11 |
| しな | 市内マップ | 13 |

たかおか解体新書って？

高岡市内には古代に越中国府が置かれた伏木や、近世には高岡城と城下町がつくられるなど高岡市域は富山県の歴史の中で大事な舞台となりました。また1,300年前に大伴家持が見た景色や、瑞龍寺や勝興寺などの日本を代表する建物や歴史的町並みが残されています。

たくさんの顔を持つ「たかおか」のいろいろな面を知ることで「たかおか」のよさを再発見することが目的です。「知っていそうで知らなかった高岡」から「まわりの人にちょっと話したくなる高岡」にしましょう。



やかもち 家持くん

としなが 利長くん

つかいかた

次のページからのエピソードやスタンプ箇所となっている施設での情報を参考にして「たかおか」のことをもっと知ろう。

- 1 見てみよう スタンプ箇所などで展示してあるものをよく観察しよう
- 2 聞いてみよう まわりの人や博物館などで聞いてみよう
- 3 ふれてみよう 見て、聞いて知った情報から当時のようすをイメージしてみよう

やくそく

- ・熱中症やけがに気をつけよう
- ・車に気をつけよう
- ・施設の人やまちの人にすすんであいさつをしよう

もっと知りたい人は

今回参考にした資料など

- ・『たかおか—歴史との出会い—』
- ・『高岡市史』
- ・『高岡鑄物師物語』
- ・『高岡銅器史』
- ・高岡市鑄物資料館
- ・高岡市立博物館
- ・能登中居鑄物館
- ・北海道博物館



たかおか歴史年表

| 300頃 | 593 | 710 | 794 | 1185 1192 | 1334 | 1573 1603 | 1868 1912 | 1926 | 1989 2019 | | |
|---------------|------|----------------|-----------------------------|-----------|-----------------------------|--|---|-----------------------------------|-----------|----|------------------|
| 弥生時代 | 古墳時代 | 飛鳥時代 | 奈良時代 | 平安時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 江戸時代 | 明治 | 昭和 | 平成 | 令和 |
| この頃桜谷古墳がつくられる | | この頃伏木に寺院が建立される | 越中国分寺が建立される 大伴家持が越中国守となる | 俱利伽羅峠の合戦 | 南北朝の対立で越中が戦場に 桃井氏が守山城を築く | 斯波氏が二上山南麓に守護所を設ける 前田利長が高岡城を築く 勝興寺が伏木古国府へ移る | 安土桃山時代 瑞龍寺が大伽藍となる 一國一城令により高岡城廃城 元勝興寺住職が加賀藩主前田治脩となる | 高岡で富山県最初の鉄道開業 市制制度が開始。「高岡市」が誕生 | 高岡大仏開眼 | | 高岡大仏開眼 高岡大仏開眼 |



たかみねしょうぢはかせ 高峰譲吉博士

Episode 1

高岡鑄物の始まり

かな や まち ある たか おか い もの はじ かん
金屋町を歩いて高岡鑄物の始まりを感じてみよう

- いま やく ねん まえ まえ た とし なが
今から約400年前、前田利長という
お殿さまによって高岡城がつくられ
ました。そして、城下町の発展のため
さまざまな商人や職人が集められました。



前田利長が
高岡と名付けたんだ。

- せいかつ ひつよう なべ かま つく
生活に必要な鍋や釜などを作るため、
にしぶ かな や げんざい といで にしぶ かな や
西部金屋（現在の戸出西部金屋）に
す ずい も じ まね
住んでいた鑄物師が招かれました。

- いもの しごと ひ あつか かじ おそ
鑄物の仕事は火を扱い、火事の恐れがあることから、
いも じ じょう かな まち せん ぼがわ へだ ひろ とち あた
鑄物師たちは城下町から千保川を隔てた広い土地を与えられ、
そこに鑄物工房が作られました。

- やがてお殿さま（利長）がなくなり、さむらい みな
かなざわ うつ しょうにん しよくにん のこ
金沢へ移りました。商人や職人は残され、
つぎ との たか おか しょうこうぎょう まち か
次のお殿さまによって高岡は商工業の町へ変わりました。

その後もお殿さまは、税や労役を免除するなど鑄物師たちを
てあつ ほご たか おか いものぎょう はってん
手厚く保護したため、高岡の鑄物業は発展したのです。

商人たちが頑張って商売をし、
職人たちはものづくりの
技を受け継いだんだ。



スタンプポイント

高岡市鑄物資料館

古文書や鑄物道具、製品など、多くの資料が展示され、高岡鑄物の技術や歴史を知ることができます。

スタンプが押せる時間 / 9:00~16:30
定休日 / 火曜（祝日の場合は翌日）



行ってみよう

高岡鑄物発祥の地 金屋町

金屋町は、お殿さまから与えられた土地に職人たちが集まって住んだため、家の敷地は間口が狭く、奥行きが深くなっています。正面側に住居、真ん中に中庭や土蔵、一番奥に火を使う作業場が配置され、火災対策がされています。現在、作業場は少ないですが、町歩きの際に注目してみましょう。



建物配置イメージ図



正面は狭くて奥に長い

利長くん 読書 たたら

たたらは、シーソーのように足で踏んで空気を送る装置だよ。鉄などを溶かすために使いました。とても大変な作業で、皆が調子をは合わせる必要があるので、「やがえふ」という作業歌ができたんだよ。



Episode 2

高岡鑄物の進出と北前船

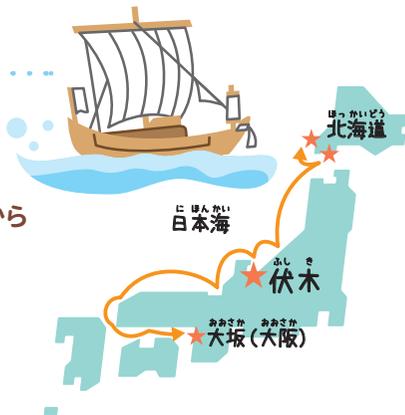
なぜ高岡鑄物が発展したのか考えてみよう

● 鑄物師たちは、お殿さまの手厚い保護を受けました。
 一方で、お殿さま(藩)と鑄物師の世界の約束事によって、
 売買の範囲や価格、作る品目などに制限がありました。

他の地域と比べて
高岡にはたくさんの
鑄物師がいたんだよ。



● 鑄物師たちは高岡の商人と協力して商品開発を進め、
 やがてお殿さまお抱えの能登の鑄物師たちの地位を
 揺るがす存在になっていきました。



● クルマがない時代、たくさんのモノを
 運ぶのは船でした。
 江戸時代の中頃から大坂(今の大阪)から
 日本海を通して北海道までの間の港で
 商品を買する北前船が活躍しました。

● 北前船によって北海道からは昆布や
 肥料が運ばれ、北陸からは主に米や
 藁製品が運ばれました。
 高岡からはニシンを原料とする肥料
 作りに必要な大型の鉄釜のほか、
 仏具や美術銅器などが運ばれました。



スタンプポイント

高岡市伏木北前船資料館(旧秋元家住宅)

秋元家は船頭などの宿泊や商品の
 売り買いや運送などの手配を行う廻船
 問屋でした。港へ入る船を眺めるため
 の望楼があり、廻船問屋でにぎわった
 伏木の面影を伝えています。



スタンプが押せる時間 / 9:00~16:30
 定休日 / 火曜(祝日の場合は翌日)

行ってみよう

旧南部鑄造所(キュポラ・煙突)



旧南部鑄造所

明治の終わりには人力のたたらに代わる送風装置や
 キュポラ(溶解炉)が建造され、設備の近代化が進み
 ました。金屋町の千保川沿いには、当時たくさんの煙突



が並び、寝る間も
 ないほどニシン釜
 を作っていました。

明治の鑄物工場の様子

利長くん読書 ニシン釜

高岡産の釜は一度にニシン1,000匹を煮る
 ことができる大きなものです。昭和初期まで
 続く大ヒット商品となりました。北海道博物館
 をはじめ北海道沿岸の各地に残されていて、
 当時の人気ぶりうかがえるよ。



産地の高岡の
釜が入っているよ

Episode 3

はな ひら たか おか どう き
花開く高岡銅器

たか おか どう き はってん りゆう かんが
高岡銅器の発展した理由を考えてみよう

- 江戸の中頃になると、民衆の生活が少し豊かになりました。仏具や火ばち、キセルなどが買われるようになり、仏具職人や細工職人も銅器を作りはじめました。

なかが とうりゅうかん
高岡の銅器商人は、幕末、外国に輸出された機軸にいち早く進出したよ。



- 高岡の商人たちは、商売の中で他の地域の好みや必要なものの情報を仕入れながら、鋳物師、仏具職人、細工職人たちを結び付け、さまざまな銅器を作って全国、海外にも販売しました。

- 明治維新が起こると、藩からの仕事がなくなり金沢や能登の職人たちは途方に暮れました。高岡は金沢や富山の職人を受け入れて銅器技術を向上させました。そして、パリやウィーンの万国博覧会などで素晴らしいと評判になりました。



ぶしんもんたいこうろ
武人文大香炉
(1878年 パリ万国博覧会出品作)

- こうして商人(問屋)が材料を用意し、造型、鋳込み、磨き、着色、装飾(彫金や象嵌)のそれぞれの専門職人が順々に作業をして完成させる分業の仕組みができ、銅器産業が発展していきました。



スタンプポイント

高岡市立博物館

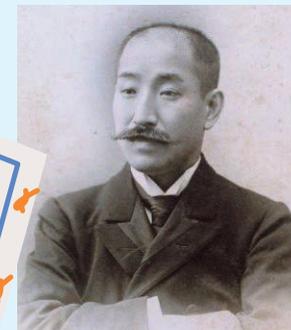
高岡の歴史から伝統産業、民俗等をわかりやすく紹介しています。伝統産業・民俗ゾーンでは貴重な鋳物資料が展示されています。

スタンプが押せる時間/9:00~17:00
定休日/月曜(祝日の場合は翌平日)



見てみよう 高岡銅工ニ答フル書

明治の世界的美術商人林忠正(高岡出身)からの高岡銅器業界全体に対する助言で、元は「高岡銅器維持ノ意見」という題名でした。美術品と工芸品の違いから、具体的にデザインや色、使用するモチーフなどまで丁寧に説明し、現代でも通じる内容となっています。



はやしただまさ
林忠正

利長くん読書

富山県工芸学校

明治27年(1894)開校。当初は生徒の教育だけでなく鋳物技術の研究や製品の開発、デザインの作成まで行い、技術の発展に貢献したんだよ。現在は富山県立高岡工芸高等学校となり、総合的な工業科高校としてもものづくり人材を育成しているよ。



ぜんごく ほんめ
全国で2番目に早く作られた工芸学校だよ。

Episode 4

銅器のまち高岡の象徴 高岡大仏

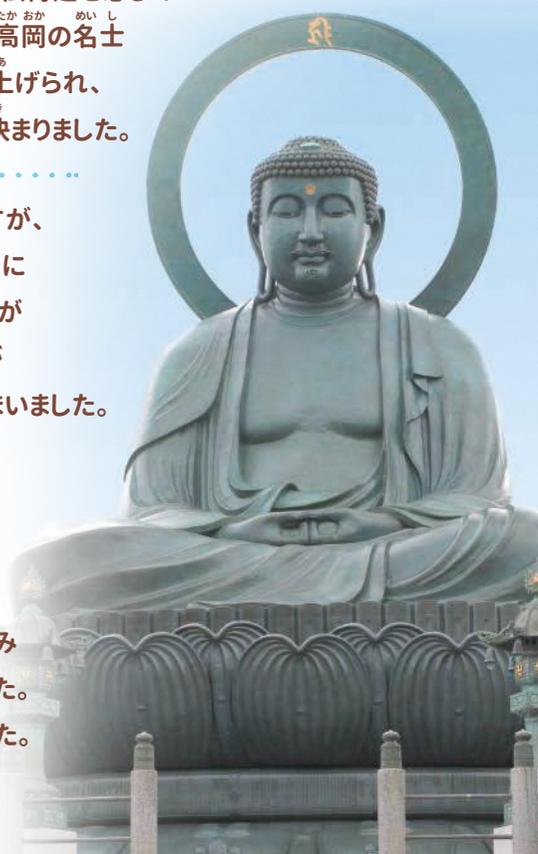
高岡大仏が高岡銅器の象徴と言われる理由を考えよう

江戸時代の中頃、高岡には木造の大仏がありましたが、火事で焼けてしまい、再建されました。しかし、明治33年(1900)、当時の高岡市内の約半数の家が焼ける大火にあい、再び焼けてしまいました。

信心深い松木宗左衛門という人が大仏再建を志して駆け回りました。明治40年(1907)に高岡の名士52名で高岡大仏再興事務所が立ち上げられ、火事に強い銅製の仏像とすることに決まりました。

4年後には大仏さまの頭が完成しますが、資金難が続き、また、大正8年(1919)に作業中に溶かした銅がこぼれる事故が起きて中断し、さらに翌年宗左衛門が亡くなると、工事は完全に止まってしまいました。

昭和3年(1928)に荻布宗四郎という人が多額の寄付をしたことをきっかけに再建の機運が盛り上がり、さらに銅器職人たちが材料を持ち込み無償で作業をしてようやく完成しました。明治の大火から33年が経っていました。



スタンプポイント

大仏寺
坂下町にある極楽寺の末寺です。かつて高岡の町に時刻を知らせていた高岡銅器製の時鐘があります。
スタンプが押せる時間/9:00~17:00
定休日/不定休



見てみよう

高岡銅器の技術が集まった仏さま



昭和8年(1933)大仏開眼供養会

造型、鑄込み、磨き、着色まですべての工程を高岡の職人が担いました。当時はまだ高岡で大きな仏像をつくった経験がなく、奈良の大仏を見学して研究したと言われていました。原型は高岡出身の中野双山の手によるもので、15年余の歳月をかけて製作されました。



まさに銅器のまち高岡のシンボルなんだよ。

利長くん覚書 日本三大仏?

高岡大仏は、奈良、鎌倉に次ぐ「日本三大仏」と言われています。政治家やえらい人ではなく市民が発願(作ろうと考えた)し、観光用でもなく、地域の銅器職人と民間の寄付によってつくれたのは高岡大仏だけ。日本一じゃないかな。

Episode 5

高岡銅器の復興と繁栄

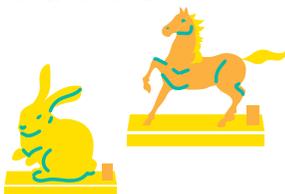
まちに出て日常に溶け込んだ高岡の鋳物技術を探してみよう

● 戦争中は銅器はぜいたく品となり原料となる金属の入手、製造販売がすべて禁止されたため、高岡の銅器産業は大きな打撃を受けました。

● 戦後、空襲を免れた高岡にアルミニウムが全国から持ち込まれ、鍋や釜などの日用品が作られました。また、戦時中に無くなった釣鐘(お寺の鐘)の注文が押し寄せたこともあって銅器産業もしだいに復興していきました。



● 高度経済成長期には、会社などの記念品の注文が増えました。設備をさらに近代化させ、鋳込みや着色技術の向上などによって高岡銅器産業が発展し、昭和50年(1975)には高岡銅器が国の伝統的工芸品に指定されました。



● 今では、銅や鉄だけでなく、亜鉛、錫、アルミなど様々な素材を使った新しいものづくりが盛んに行われています。現在の生活様式に合わせ、テーブルウェアやインテリアなどの分野にも高岡銅器の世界が広がっています。



スタンプポイント

高岡地域地場産業センター ZIBA

高岡銅器、高岡漆器や菅笠などの地場産業を広く県内外に紹介・展示・販売するだけでなく、技術の継承や商品の開発の支援をしています。鋳物体験もできます(要予約)。

スタンプが押せる時間/10:00~18:00
定休日/水曜



高峰譲吉博士覚書

高岡はアルミ産業の適地

高岡の鋳物技術はアルミ加工に共通するところがあります。また、富山県の豊富な水資源を活用して発電することで、アルミに必要な大量の電力を確保しました。



行ってみよう まちなかアート

高岡のまちには高岡駅前や古城公園などいろいろな場所にたくさんの銅像(ブロンズ像)があります。さらに銅器会社の前にサンプルとして大きな銅像が置かれているなど、他にはない風景があります。



金屋町



片原町交差点



高岡駅改札前

